

貸借対照表
(令和3年 3月31日)

(単位:円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	1,360,147,201	固定負債	31,047
有形固定資産	3,872,730	地方債	-
事業用資産	2,919,785	長期未払金	-
土地	410,768	退職手当引当金	31,047
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	6,179,504	その他	-
建物減価償却累計額	-3,670,487	流動負債	260,991
工作物	-	1年内償還予定地方債	-
工作物減価償却累計額	-	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	3,211
航空機	-	預り金	257,780
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	292,038
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	-	固定資産等形成分	1,393,826,335
インフラ資産	-	余剰分(不足分)	16,019,062,305
土地	-	他団体出資等分	-
建物	-		
建物減価償却累計額	-		
工作物	-		
工作物減価償却累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	-		
物品	3,379,418		
物品減価償却累計額	-2,426,473		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	1,356,274,471		
投資及び出資金	395,000		
有価証券	-		
出資金	-		
その他	395,000		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	102,696,682		
長期貸付金	-		
基金	1,262,030,087		
減債基金	-		
その他	1,262,030,087		
その他	-		
徴収不能引当金	-8,847,298		
流動資産	16,053,033,477		
現金預金	15,989,814,421		
未収金	31,304,000		
短期貸付金	-		
基金	33,679,134		
財政調整基金	33,679,134		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-1,764,078		
資産合計	17,413,180,678	純資産合計	17,412,888,640
		負債及び純資産合計	17,413,180,678

行政コスト計算書

自 令和2年 4月 1日
至 令和3年 3月31日

(単位:円)

科目名	金額
経常費用	329,272,455,239
業務費用	8,753,402,697
人件費	26,841,492
職員給与費	9,645,258
賞与等引当金繰入額	3,211
退職手当引当金繰入額	-4,459
その他	17,197,482
物件費等	1,929,228,398
物件費	1,928,408,497
維持補修費	210,105
減価償却費	609,796
その他	-
その他の業務費用	6,797,332,807
支払利息	-
徴収不能引当金繰入額	4,360,850
その他	6,792,971,957
移転費用	320,519,052,542
補助金等	320,519,022,341
社会保障給付	-
他会計への繰出金	-
その他	30,201
経常収益	623,424,419
使用料及び手数料	127,612
その他	623,296,807
純経常行政コスト	328,649,030,820
臨時損失	-
災害復旧事業費	-
資産除売却損	-
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	-
資産売却益	-
その他	-
純行政コスト	328,649,030,820

純資産変動計算書

自 令和2年 4月 1日

至 令和3年 3月31日

(単位:円)

科目名	合計	固定資産等 形成分	余剰分 (不足分)	他団体 出資等分
前年度末純資産残高	7,001,376,651	118,664,253	6,882,712,398	-
純行政コスト(△)	-328,649,030,820		-328,649,030,820	-
財源	339,059,720,495		339,059,720,495	-
税金等	195,859,746,054		195,859,746,054	-
国県等補助金	143,199,974,441		143,199,974,441	-
本年度差額	10,410,689,675		10,410,689,675	-
固定資産等の変動(内部変動)		1,274,335,847	-1,274,335,847	
有形固定資産等の増加		14,353	-14,353	
有形固定資産等の減少		-609,796	609,796	
貸付金・基金等の増加		1,275,651,616	-1,275,651,616	
貸付金・基金等の減少		-720,326	720,326	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	-	-		
他団体出資等分の増加	-			-
他団体出資等分の減少	-			-
比例連結割合変更に伴う差額	822,315	826,236	-3,921	
その他	-1	-1	-	
本年度純資産変動額	10,411,511,989	1,275,162,082	9,136,349,907	-
本年度末純資産残高	17,412,888,640	1,393,826,335	16,019,062,305	-

資金収支計算書

自 令和2年 4月 1日

至 令和3年 3月31日

(単位:円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	329,267,488,992
業務費用支出	8,748,436,450
人件費支出	26,845,891
物件費等支出	1,928,618,602
支払利息支出	-
その他の支出	6,792,971,957
移転費用支出	320,519,052,542
補助金等支出	320,519,022,341
社会保障給付支出	-
他会計への繰出支出	-
その他の支出	30,201
業務収入	339,667,390,431
税収等収入	195,859,746,054
国県等補助金収入	143,199,974,441
使用料及び手数料収入	127,612
その他の収入	607,542,324
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	10,399,901,439
【投資活動収支】	
投資活動支出	1,262,154,793
公共施設等整備費支出	14,353
基金積立金支出	1,262,043,440
投資及び出資金支出	97,000
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	174,200
国県等補助金収入	-
基金取崩収入	39,200
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	-
その他の収入	135,000
投資活動収支	-1,261,980,593
【財務活動収支】	
財務活動支出	-
地方債償還支出	-
その他の支出	-
財務活動収入	-
地方債発行収入	-
その他の収入	-
財務活動収支	-
本年度資金収支額	9,137,920,846
前年度末資金残高	6,851,634,192
比例連結割合変更に伴う差額	1,603
本年度末資金残高	15,989,556,641
前年度末歳計外現金残高	82,241
本年度歳計外現金増減額	175,539
本年度末歳計外現金残高	257,780
本年度末現金預金残高	15,989,814,421

I. 重要な会計方針

1. 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア. 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川、及び水路の敷地は備忘価格 1 円としています。

イ. 昭和 60 年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川、及び水路の敷地は備忘価格 1 円としています。

② 無形固定資産……………原則として取得原価

ただし、取得原価が不明なものは再調達原価としています。

2. 有価証券等の評価基準及び評価方法

① 市場価格のある有価証券等……………会計年度末における市場価格

② 市場価格がない有価証券等……………取得原価

ただし、市場価格のないものについて、実質価額が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしています。

3. 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が 1 年以内のリース取引及びリース契約 1 件あたりのリース料総額が 300 万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

4. 引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

過去 5 年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

② 退職手当引当金

本年度末に特別職を含む全職員（本年度末退職者を除く）が普通退職した場合の退職手当要支給額を計上しております。

③ 賞与等引当金

翌年度 6 月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額

の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

5. リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア. 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

イ. ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っています。

6. 連結資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としています。

このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

7. 消費税等の会計処理

税込方式によっております。

II. 重要な会計方針の変更等

該当なし

III. 重要な後発事象

該当なし

IV. 重要な偶発債務

該当なし

V. 追加情報

1. 連結対象団体（会計）

団体（会計）名	区分	連結の方法	比例連結割合
茨城県市町村総合事務組合 ※退職手当事業以外	一部事務組合・広域連合	比例連結	0.07%

連結の方法は次のとおりです。

一部事務組合・広域連合は、各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結の対象としています。

2. 出納整理期間

地方自治法第 235 条の 5 に基づき、出納整理期間を設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

3. 財務書類の表示金額単位

千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

4. 売却可能資産の範囲及び内訳

該当資産はありません。